2023-11-10

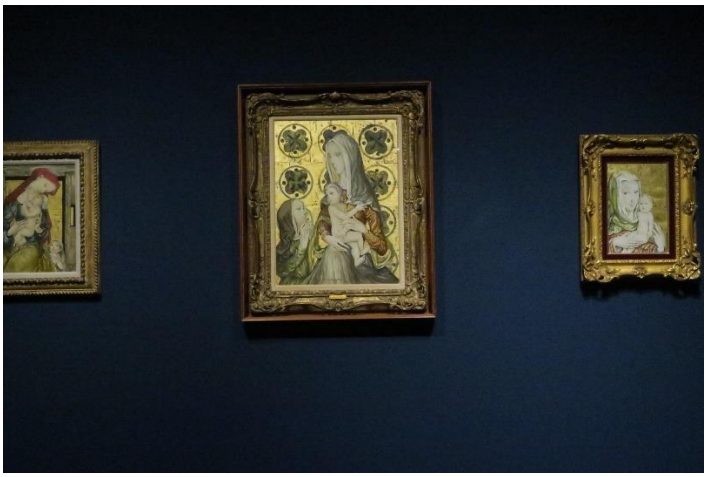
軽井沢・紅葉をめでる旅：＜ その２ 軽井沢・美術館 ＞

山本 雅晴

軽井沢駅近くに藤田嗣治の作品だけを展示する安東美術館が昨年開館したと聞いていたので訪れた。大賀ホールの近くの便利な所にレンガ色の立派な個人美術館があった。藤田作品の大作はないが、油彩画・水彩画・ドローイングなど初期から晩年までの作品 180 点を所蔵しているとのこと。気軽に親しみが持てる美術展だ。

１．軽井沢駅から歩いて数分の安東美術館,2023-10-29

２．展示室内：撮影は作品 3 枚以上を入れれば OK



３．藤田嗣治の展示作品

４．藤田嗣治の展示作品

５．大賀ホール(2005 年開館・大賀典雄の寄付をもとに建設)

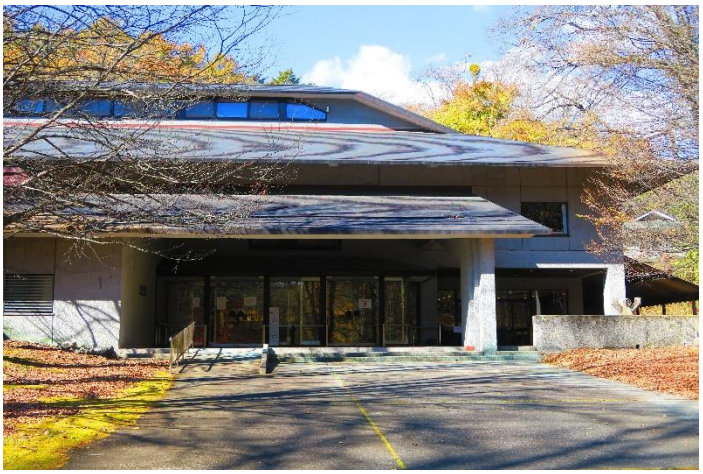
６． 展示作品の前で(自宅で寛ぐように！)

10 月 31 日(火)　中軽井沢の星野リゾートの 2 日目、この日も快晴で時間的にゆとりもあったので、片道約 2 km とやや遠いが**セゾン現代美術館**にエクスカーション気分で出かけることにした。ここには 1996 年 4 月 28 日に中軽井沢駅前から自転車で訪れた記録がある。この時は美術館の緑豊かな庭の彫刻のみを見た。途中の小高い丘の広場に、この周辺一帯を開発した西武グループの総帥、堤康次郎の銅像が立っていたことを覚えていた。今日同じ道を歩いて辿ってみると、かってあったスケートセンターやテニスコート、ホテルや千ヶ滝温泉施設は廃墟となっていた。浅間山は空き地から堂々と見えた。黒い銅像と美しく紅葉した木々は昔のままだった。

７．千ヶ滝温泉近辺からの浅間山

８，千ヶ滝温泉近辺の小高い丘の広場の銅像

この小高い丘の広場からくだりで木々の間の道を 500ｍほど行くと**セゾン現代美術館**である。2011 年 9 月に来た記録がある。この時はバスの便があった。今はバスの便もなくなっていた。美術館の企画展は主に米国で活躍した「荒川修作展」の最終日であった。小生には全く理解しがたい理屈ポイ現代アートである。常設展示もあり、カンデンスキー、クレー、ポロック、ジャスパー・ジョーンズ、マーク・ロスコー、サム・フランシス、などの超一流の油彩画作品が展示されていた。これ以外にミクス・メディア作品やジョージ・シーガルの作品も以前同様に展示されていた。これらの室内展示作品以上に気に入っているのは外の庭園の石の彫刻でイサム・ノグチ、安田侃、井上武吉、などと若林奮の鉄の正門・橋などで、いずれも庭園の芝生や草木と調和がとれているように思われた。若林は庭園全体のプランを作成した。この立派な作品と建造物のある現代美術館ではあるが、あまり入館者がいない！この美術館は今後も存続しうるだろうかとふと思った。



９，セゾン現代美術館・エントランスと正面玄関

１０，庭園の彫刻作品「天沐・天聖」：安田侃

安田侃は主にイタリアのフィレンツェで制作している。彫刻に用いる白い大理石はミケランジェロも使用したカッラーラ産を使用している。